

民主化闘争情報

No. 891
2013年10月25日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

9月に北海道で貨物鉄産労に加入したと民主化闘争情報882号で報じたばかりだが、今度は静岡総合鉄道部で25才青年運転士が加入した。

JR貨物・静岡総鉄で 25才青年運転士が加入！

**JR貨物・静岡総合鉄道部で、25才青年が「一部組合
役員の為だけの組合」JR総連・日貨労と決別し、加入
を果たす！！青年を中心に組織拡大が続く！**

貨物鉄産労・東海地区本部では、今年1月に浜松地区で23歳・24歳の若手2名が加入、その後も4月、6月と日貨労を脱退し加入が相次いでいる。そして、先月9月に北海道で23歳の青年組合員が加入したのに続いての今回の25歳青年運転士の加入である。貨物鉄産労は、昨年1年間で9名の青年組合員を含む11名の組織拡大を果たしているが、定期大会以降今回の加入で3名になる。新年度も組織拡大の流れが続いている。

加入理由は「経営基盤が軟弱であるJR貨物の為に、貨物鉄産労は国に対し税制免除申請、そしてそれに向けた行動に改心させられた。運転士になって日貨労は一部の組合役員の為だけの労組であるんだなど、見方が少しずつ変わってきた」ということであった。

貨物鉄産労が取り組む政策活動が組織拡大へ！

貨物鉄産労はこれまでも税制支援策の確保をはじめとしてJR連合と連携しながら政策活動を強化してきた。さる9月27日には「貨物鉄道モーダルシフトプロジェクト」として、同プロジェクト座長の榛葉賀津也参議院議員とともに仙台貨物ターミナル駅を視察。東北最大の消費地として、また東北地方と全国との結節点として重要な役割を担うものの、狭小さゆえに非効率な作業を強いられている実態を改めて把握し、構造的な課題の解決に向け政府要請など政策的取り組みを加速している。

今回の組織拡大は、加入理由で述べられている通り、こうした政策活動の取り組みが青年の目にしっかり届いている証左である。貨物鉄産労はこれからもJR貨物の将来を考え、政策活動に取り組むとしている。

**良識ある日貨労組合員の皆さん！JR貨物の将来を
考え政策活動に取り組む貨物鉄産労に結集しよう！**